史跡洲本城跡 整備基本計画(概要版)

1. 整備基本計画の目的

平成14年(2002)に策定された『史跡洲本城跡保存管理計画策定報告書』で示された城跡の保存・活用の基本的な考え方などを踏まえ、洲本城が現在に至る経緯、洲本城の価値や現状と課題を明らかにし、洲本城跡の適切な保存・活用に向けた具体的な整備計画を策定します。



2. 洲本城跡の概要

洲本城は、戦国時代に淡路水軍を率いた安宅氏によって築かれました。標高約 133mの三熊山山頂に位置するこの城は、天正 13 年(1585)に入城した脇坂安治によって二条の登り石垣を持つ総石垣の堅城に改修されました。慶長 14 年(1609)、脇坂氏の伊予大洲転封に伴い事実上の廃城となりますが、石垣は残され今日に至っています。平成 11 年(1999)、洲本城は洲本市及び淡路島の歴史を記録し伝える重要な遺跡として国の史跡に指定されました。

3. 洲本城跡の価値

洲本城跡の歴史的な価値(本質的価値)

①大阪湾が一望できる要衝の地に築かれた貴重な城郭遺構

・洲本城から紀淡海峡や大阪湾への眺望は、海上交通の要衝としてこの地を選定した意図及び役割が容易に理解できます。

②戦国期~幕末まで、淡路一国における統治の拠点となった城郭

・洲本城は海上交通の要衝に位置しているため、戦国期から近世 初頭にかけた淡路島及び日本の歴史に密接に関係しています。

③中世~近世にかけての築城技術の変遷を辿ることができる城郭

・洲本城に残る石垣などの遺構は、中世城郭から近世城郭の築城 技術が重なり合いながら存在し、山城、山腹の遺構、山下の居 館跡、城下町が一体的に残存しています。

廃城後に形成された価値(多様な価値)

- ①中心市街地の背景に貴重な自然環境が存在します
- ②城跡が地域における心の拠り所として存在しています
- ③市民の憩いの場、観光客が訪れる場として親しまれています



上空より本丸・大阪湾方面を臨む



本丸より城下町方面を眺める

4. 整備の基本理念

洲本城跡の調査研究、将来への継承を行う

洲本城跡の調査研究により、縄張りの変遷や洲本城跡の学術的価値を明らかにするとともに、価値ある歴史 遺産として後世へ確実に継承します。

自然との共生、地域シンボルの顕在化を図る

洲本城跡の位置する三熊山は、市街地と一体的な景観を形成しています。また三熊山は、国立公園に指定されており貴重な自然環境に恵まれています。そのため、史跡と自然の共生を図りながらも、市街地から見える地域のシンボルとして史跡の顕在化を行います。

まちへの誇りと愛情の醸成、観光への寄与を図る

洲本城跡の活用を積極的に行うことで、市民及び観光客に魅力(価値)を伝え、来城を促します。また、洲本城跡だけの整備に留まることなく、城郭関連施設や城下町等と連動し、一体的な活用を目指した整備を行います。これらの取り組みを行うことで、市民が歴史の中で暮らしていることを伝え、まちへのより深い誇りと愛着の醸成につなげていきます。

5.整備の基本方針

①本質的価値の保存と顕在化を図る

- ・遺構の保存を第一義とした整備を行います。
- ・各曲輪の性格や築城変遷を解明するため、発掘調査や文献調査を行います。
- ・崩壊の危険性が高い石垣は、原因を調査し必要に応じて修復等を行います。
- ・石垣や石垣周辺に成育している支障木の伐採を行います。
- ・石垣の現状把握、適切な維持管理に必要な「石垣カルテ」(注1)を作成し、 それぞれの石垣の状況に応じた整備を行います。

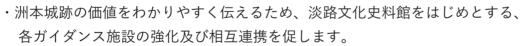


赤色立体地図を活用した 縄張りの調査

(注1) 石垣カルテとは、城跡の石垣に関する情報を網羅的にまとめた資料です。石垣の日常的な維持管理、復旧(修理)等を行う際の基礎的な情報源となるものです。

②保存活用のための施設整備を図る

- ・現状の利用に即した機能及び配置の再検討を行います。
- ・不要な施設の撤去、必要な施設の新設・更新を行います。
- ・洲本城跡の価値を伝える案内板は、わかりやすい内容とするとともに、 景観にも配慮し、必要最小限の数で適切な場所に設置します。





淡路文化史料館

③周辺の自然環境及び歴史的景観の保全による一体的な景観形成を図る

- ・洲本城跡、城下町、三熊山の自然を一体とした整備を行います。
- ・地域的文脈を踏まえ、関連文化財の連鎖に考慮した整備を行います。
- ・眺望を確保するため、支障木の伐採・剪定を行います。

④段階的な整備を図る

- ・東西約 800m、指定面積は約 26 万kmにわたる広大な城のため、ゾーンを設定し、段階的な整備を行います。
- ・遺構の変状と利用状況等を考慮し、危険度の高い箇所から計画的に整備を行います。
- ・特に石垣崩落の危険度の高い箇所については、早急に整備を行います。

6. ゾーン計画

山腹遺構ゾーン

上の城と下の城とのつながり、 防備を体感できる場

古屋敷や竪堀、登り石垣など、 主郭部を補完する重要遺構が存 在しています。

<u>西の丸ゾーン</u> 西の砦、石切場を 体感できる場

洲本城の石切場です。西方を防御するための石垣は、洲本城で最長を測ります。

下の城ゾーン

洲本城の居館跡として 一体的な整備を推進する場

現在は、蜂須賀時代に 築かれた石垣や堀の一 部が残っています。

東の丸ゾーン 貴重な二段郭、

水の手空間を体感できる場

二段郭は独立した曲輪で、水の手 郭は籠城戦を意識した井戸や池が 見られます。

武者溜・馬屋ゾーン 出丸的空間を体感できる場

大阪湾や紀淡海峡方面へ張り出すように築かれた曲輪は海上の見張りの役割を担っていたと考えられます。

中心部ゾーン 洲本城の中枢を体感できる場

広大な縄張りの中心に位置し、その 曲輪の構造から城で最も重要な場所 であったことがわかります。



7. 整備の事業計画

第1期事業(前期)(令和3年度(2021)~令和7年度(2025)) 中心部ゾーン北西石垣の修復、来訪者の東の丸ゾーンへの誘導



石垣の現状把握

- ・石垣カルテの作成
- ・危険度の再判定

下の城の保存

・下の城の遺構の確実な保存に向けて、 追加指定に向けた取り組み

洲本城・下の城・城下町の積極的な情報発信

- ・淡路文化史料館の洲本城に関連する展示の充実
- ・洲本城跡のホームページや、パンフレット、リーフレットの作成
- ・下の城に案内板を設置



中心部ゾーン北西石垣

第1期事業(後期)(令和8年度(2026)~令和12年度(2030)) 令和8年(2026)の築城500年を契機とした積極的な情報の発信、活用、連携



岩石の上に築かれた石垣(武者溜)



東登り石垣(山腹遺構ゾーン)

・見学会、石積み体験の開催



古屋敷(山腹遺構ゾーン)

- ・特徴的な石垣や眺望に ついての説明板の設置 ・休憩施設の撤去、更新 ・市街地から石垣が類推でき るように、石垣北面の樹木 の剪定
- 逼 nn

・石垣修復の完了

- ・曲輪の大きさが体感できる ように支障木を伐採
 - ・市街地から東西約 800mの 縄張りを類推できるように 支障木を伐採

・洲本城の特徴的な遺

構に案内板の設置

- 山頂遺蹟が一ツ
 - ・人家に近く危険性の 高い樹木の伐採
- ・遺構の確実な保存のため、追加指定に向けての取り

A STANK

第1期事業(後期) 整備イメージ(海側から)

市民や観光客に向けた積極的な情報の発信

- ・洲本城関連施設に案内板やパンフレット等の設置
- ・「広報すもと」へ洲本城や城郭関連施設の見所や歴史等を紹介

洲本城・下の城・城下町の一体的な活用、連携

・洲本城跡と城下町が一体となったイベント等の開催



蜂須賀時代の居館跡(下の城)

史跡洲本城跡 整備基本計画 (概要版)

発行日:令和3年3月

発 行:洲本市教育委員会 (TEL:0799-22-3321)

〒656-8686 兵庫県洲本市本町三丁目 4番 10号